

---

---

四国中央市 子どもの生活実態に関する調査  
報告書

---

---

－ 概要版 －

令和6（2024）年7月  
愛媛県 四国中央市

## ～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 調査結果（保護者）	2
1 最終学歴	2
2 就労状況	4
3 保護者と子どもとの関わり方	5
4 塾や習いごとの状況	6
5 近所の人との付き合い程度	7
6 子どもの進学先	8
7 子どものことでの悩み	10
8 現在の暮らしの状況	11
9 子どもの頃の経済的なゆとり	12
10 孤独感の有無	13
11 永住意向	14
12 現在の生活の満足度	15
13 必要としている支援	16
III 調査結果（小・中学生）	17
1 学校生活の楽しさ	17
2 授業以外の1日あたりの勉強時間	18
3 授業に対する理解度	19
4 希望する進学先	20
5 ふだんの学校生活について	21
6 スマートフォン等の使用時間	23
7 家の手伝い	24
8 家事の手伝いをする日数	25
9 家事の手伝いに対する思い	26
10 ヤングケアラーの自覚について	27
11 学校や大人に助けてほしいこと	28
12 現在の生活の満足度	29

# I 調査の概要

## 【調査の目的】

本調査は、子どもの生活状況の実態や家庭の状況、生活環境についての意識やニーズなどを把握し、今後の子ども・子育て支援の充実や改善に向けた、施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。

区分	小中学生	保護者
調査名称	小学生・中学生の生活についてのアンケート調査	子どもの生活実態に関する調査
調査対象	小学5年生 中学2年生	小中学生の保護者
調査方法	学校を通じた配布～ Webサイト上で回答	学校を通じた配布～ Webサイト上で回答
調査時期	令和6（2024）年4～5月	令和6（2024）年4～5月
有効回収数／配布数 （有効回収率）	小中学生合計 1,303票／1,342票（97.1%） 小学生 603票／644票（93.6%） 中学生 663票／698票（95.0%）	848票／1,342票（63.2%）

注：小学生と中学生の合計が、全体の合計（1,303）と一致しないのは「無回答」「答えたくない」を除いているため。

## 【保護者票の回答者】（保護者票問1回答結果より）

	合計	母親 （継母を含む）	父親 （継父を含む）	祖父母	その他	無回答
--	----	---------------	---------------	-----	-----	-----

### 【小学生保護者】

構成比(%)	100.0	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0
件数(件)	420	399	21	0	0	0

### 【中学生保護者】

構成比(%)	100.0	92.0	6.5	0.5	0.3	0.8
件数(件)	398	366	26	2	1	3

## 【地域別回収状況】（保護者票問2回答結果より）

	合計	川之江地域	三島地域	土居地域	新宮地域
--	----	-------	------	------	------

### 【小学生保護者】

構成比(%)	100.0	41.4	40.7	17.4	0.5
件数(件)	420	174	171	73	2

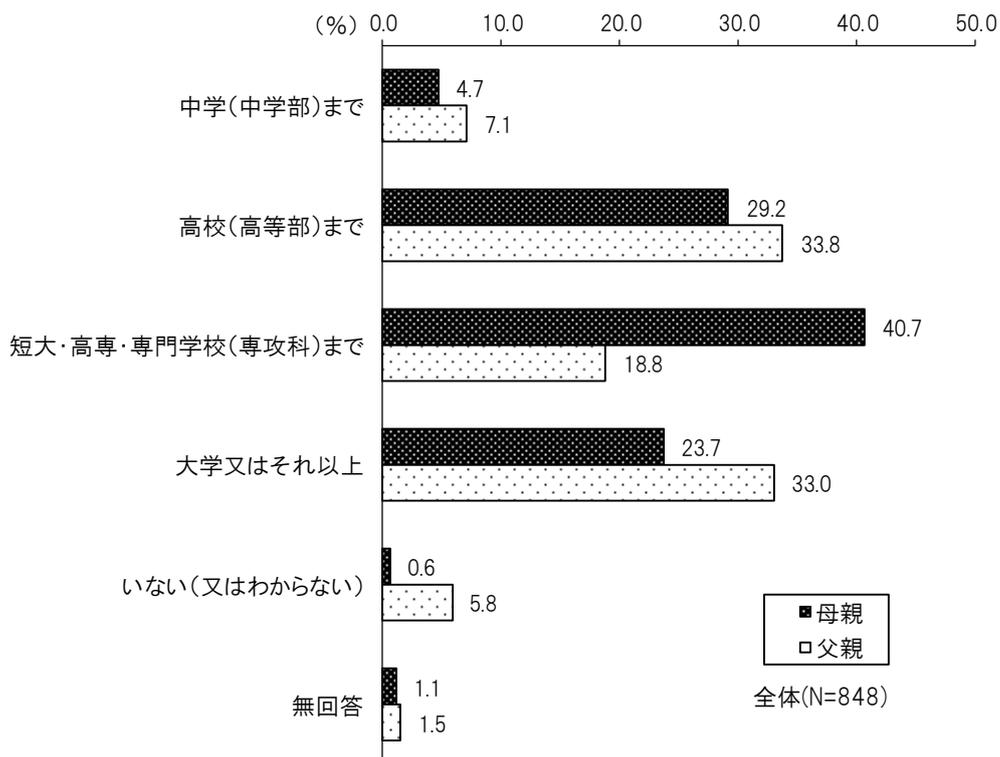
### 【中学生保護者】

構成比(%)	100.0	38.7	44.0	16.3	1.0
件数(件)	398	154	175	65	4

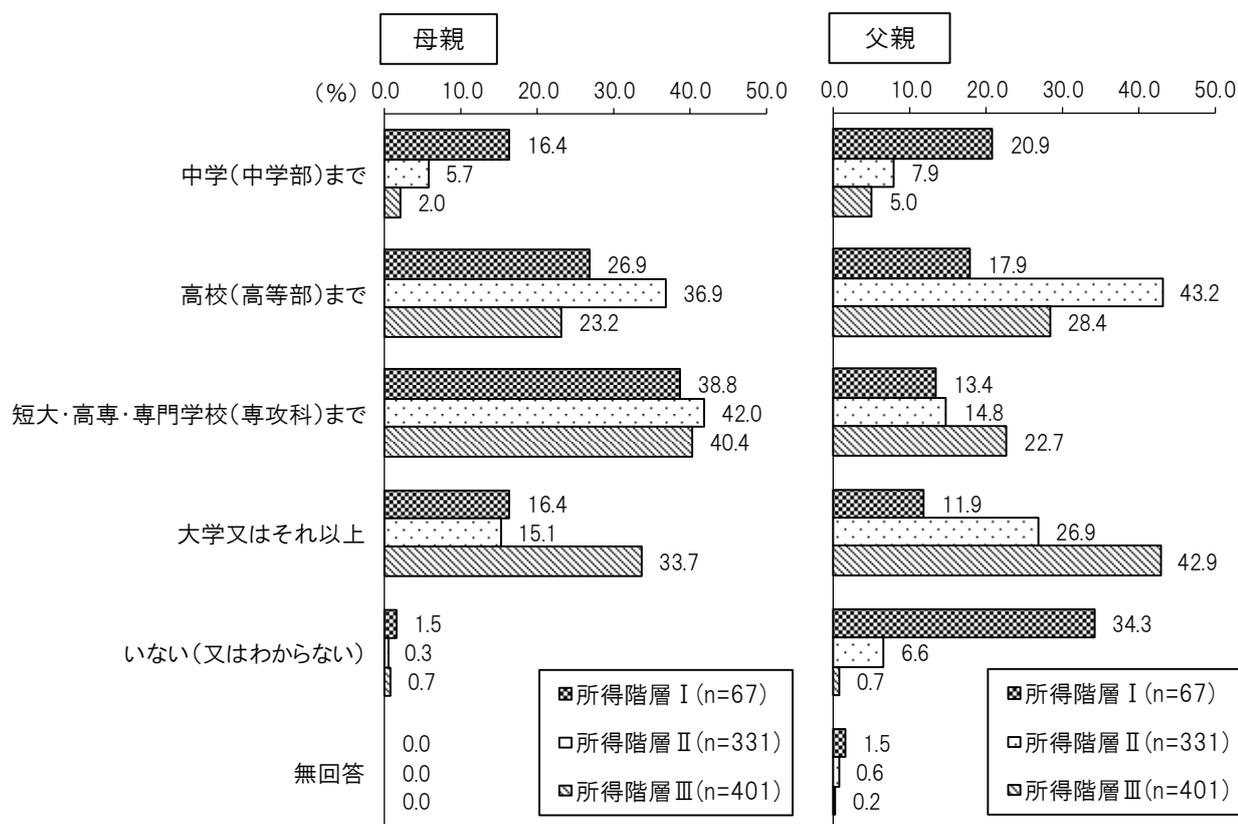
## II 調査結果（保護者）

### 1 最終学歴

最終学歴については、母親は「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が40.7%と最も高く、父親は「高校（高等部）まで」（33.8%）、「大学又はそれ以上」（33.0%）の割合が高くなっている。



所得階層別では、母親、父親ともに、所得階層Ⅲで「大学又はそれ以上」の割合が他の階層を大きく上回っている。また、父親の所得階層Ⅱで「高校（高等部）まで」の割合が高くなっている。



### 【用語の定義】

#### ・所得階層について

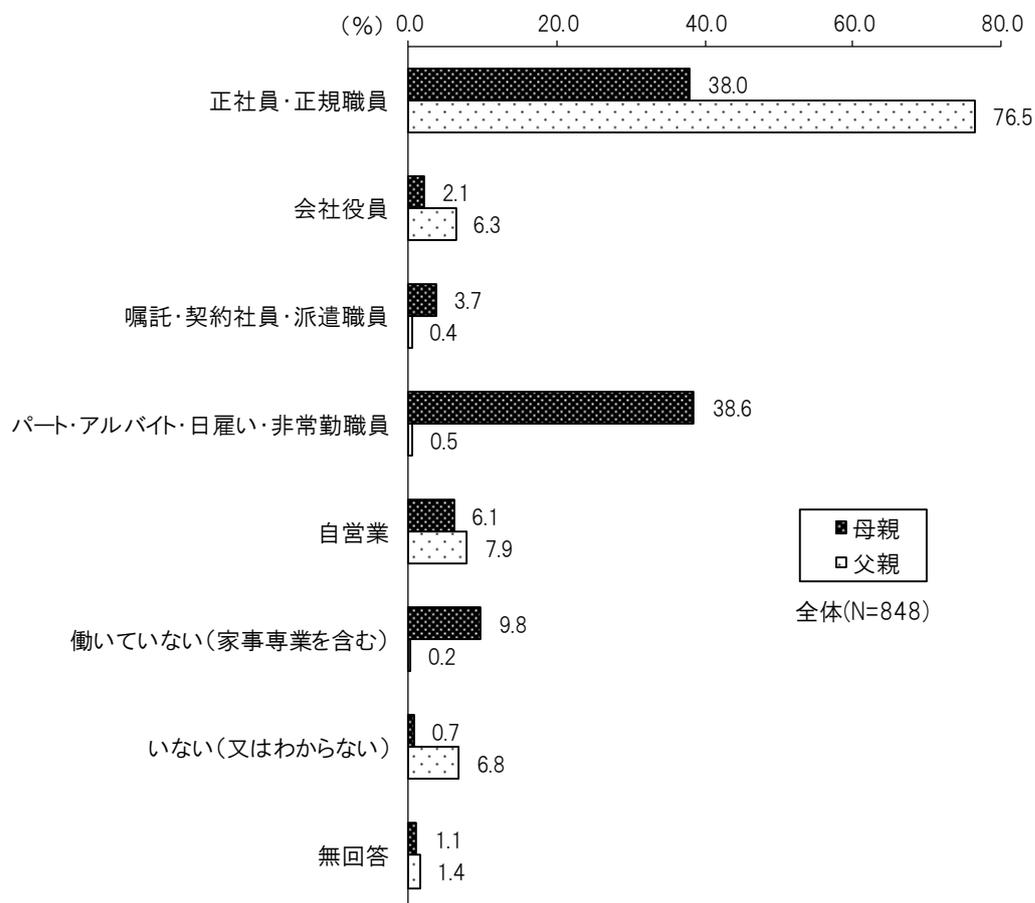
本調査では、基本クロス集計に用いている「所得階層別」について、下記の手順により3段階に分類している。

- ① 年間収入（保護者票問 27）に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）
- ② 上記の値を、保護者票問4で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- ③ 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

- ・所得階層Ⅰ：中央値の2分の1未満
- ・所得階層Ⅱ：中央値の2分の1以上かつ中央値未満
- ・所得階層Ⅲ：中央値以上

## 2 就労状況

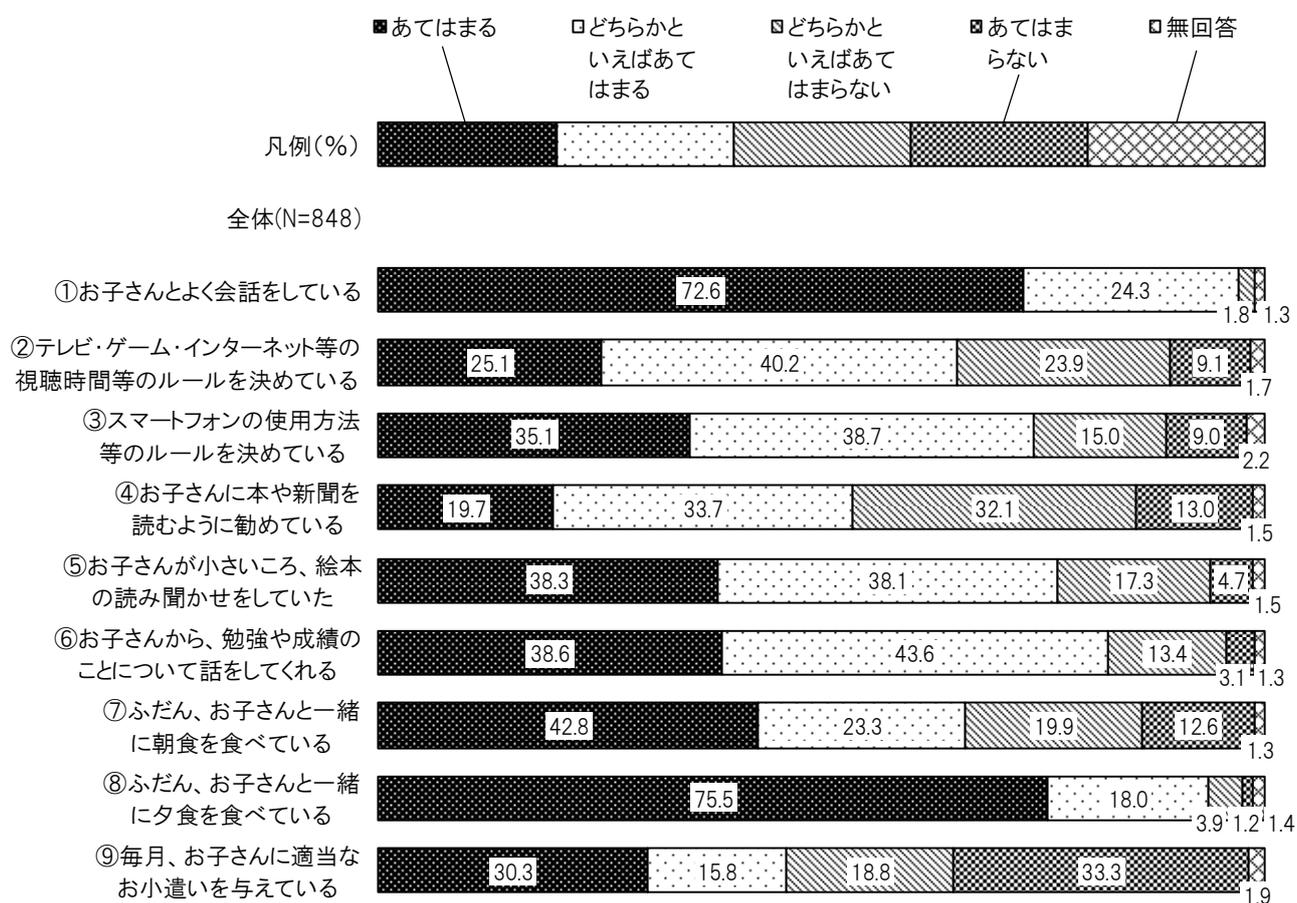
就労状況については、母親は「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が38.6%と高く、父親は7割以上（76.5%）が「正社員・正規職員」と回答している。



### 3 保護者と子どもとの関わり方

保護者と子どもとの関わり方については、『あてはまる』の割合（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）が高い順に「①お子さんとよく会話をしている」（96.9%）、「⑧ふだん、お子さんと一緒に夕食を食べている」（93.5%）、「⑥お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」（82.2%）、「⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」（76.4%）となっている。

一方、『あてはまらない』の割合（「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」の合計）の割合が高い順に「⑨毎月、お子さんに適当なお小遣いを与えている」（52.1%）、「④お子さんに本や新聞を読むように勧めている」（45.1%）、「②テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」（33.0%）、「⑦ふだん、お子さんと一緒に朝食を食べている」（32.5%）となっている。



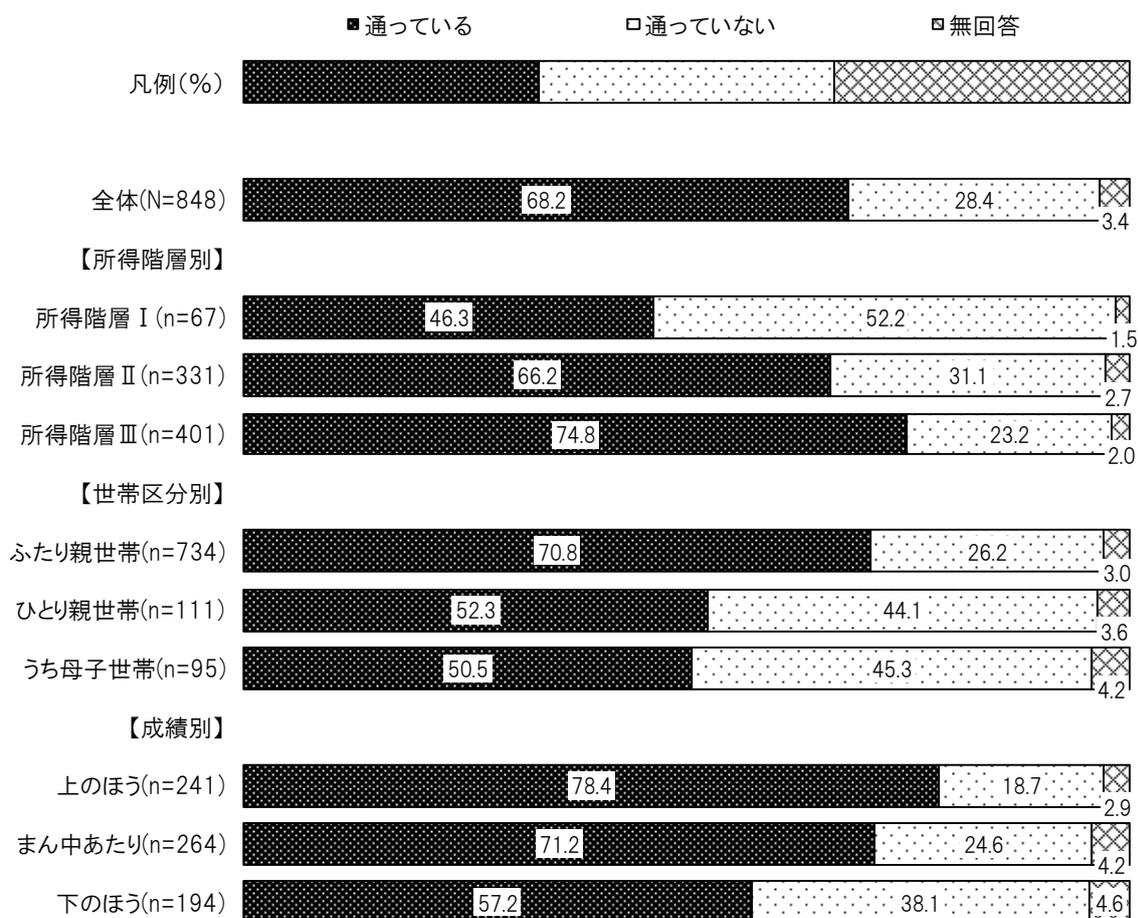
## 4 塾や習いごとの状況

塾や習いごとの状況については、「通っている」の割合が68.2%、3割近く(28.4%)が「通っていない」と回答している。

所得階層別では、所得の階層が高いほど「通っている」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ふたり親世帯で「通っている」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。

成績別では、下のほうと回答した層で「通っていない」の割合が高くなっている。

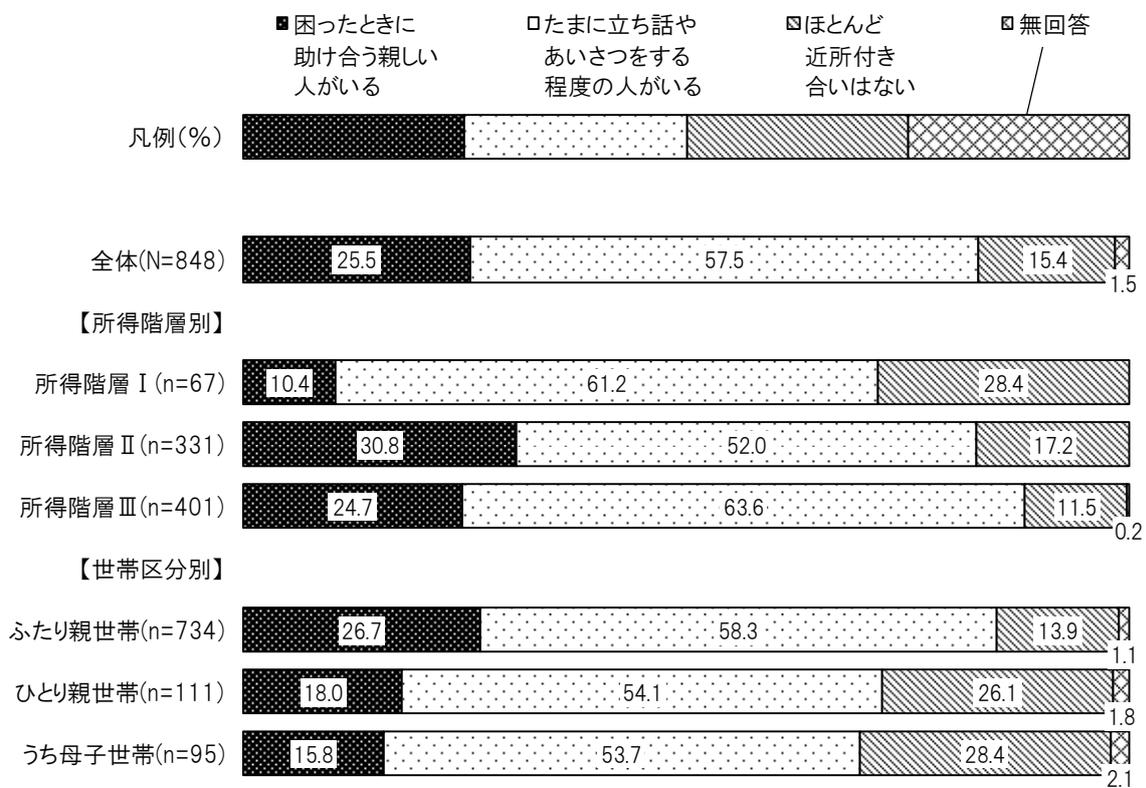


## 5 近所の人との付き合い程度

近所の人との付き合い程度については、「たまに立ち話やあいさつをする程度の人がいる」が6割近く（57.5%）を占めており、4人に1人（25.5%）が「困ったときに助け合う親しい人がある」と回答している。

所得階層別では、所得の階層が低いほど「ほとんど近所付き合いはない」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ふたり親世帯はひとり親世帯に比べて「困ったときに助け合う親しい人がある」の割合が高く、ひとり親世帯は「ほとんど近所付き合いはない」の割合が高くなっている。

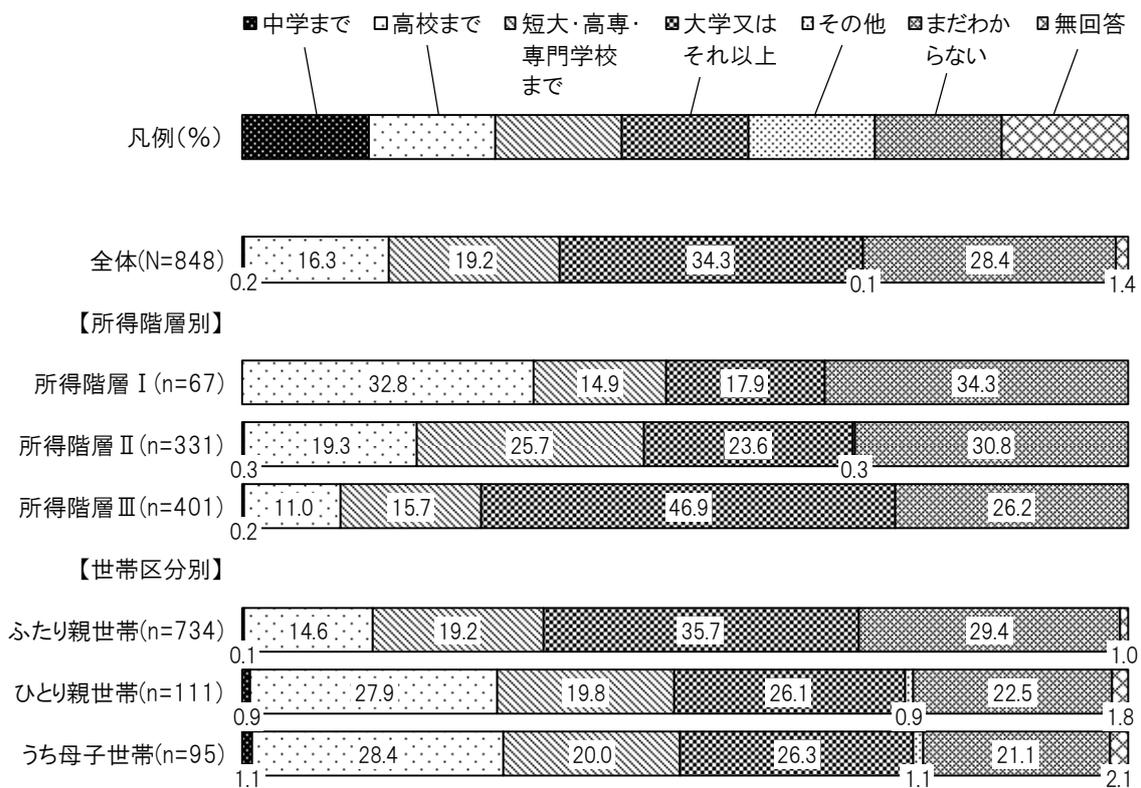


## 6 子どもの進学先

子どもの進学先については、「大学又はそれ以上」の割合が34.3%と最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」(19.2%)、「高校まで」(16.3%)の順となっている。一方、約3割(28.4%)が「まだわからない」と回答している。

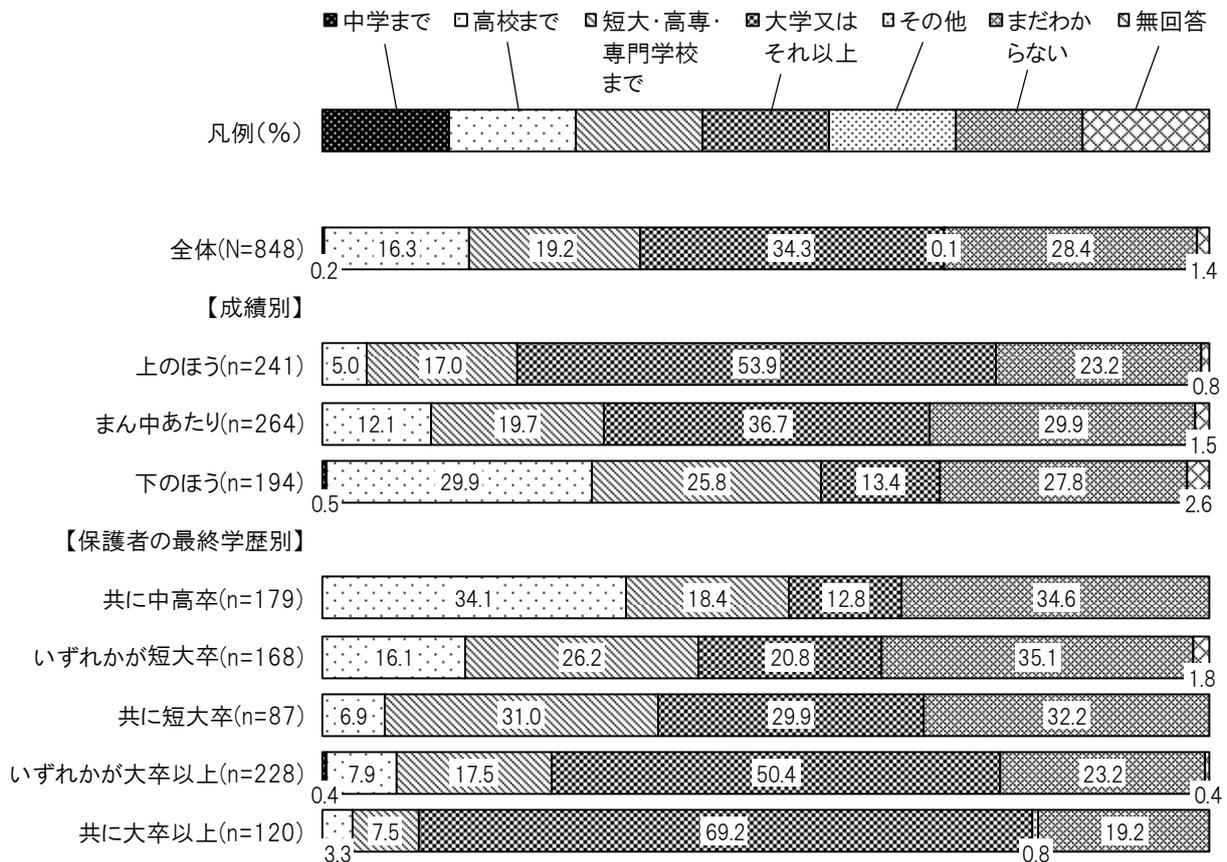
所得階層別では、所得の階層が低いほど「高校まで」の割合が高く、所得の階層が高いほど「大学又はそれ以上」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ふたり親世帯はひとり親世帯に比べて「大学又はそれ以上」の割合が高く、ひとり親世帯で「高校まで」の割合が高くなっている。



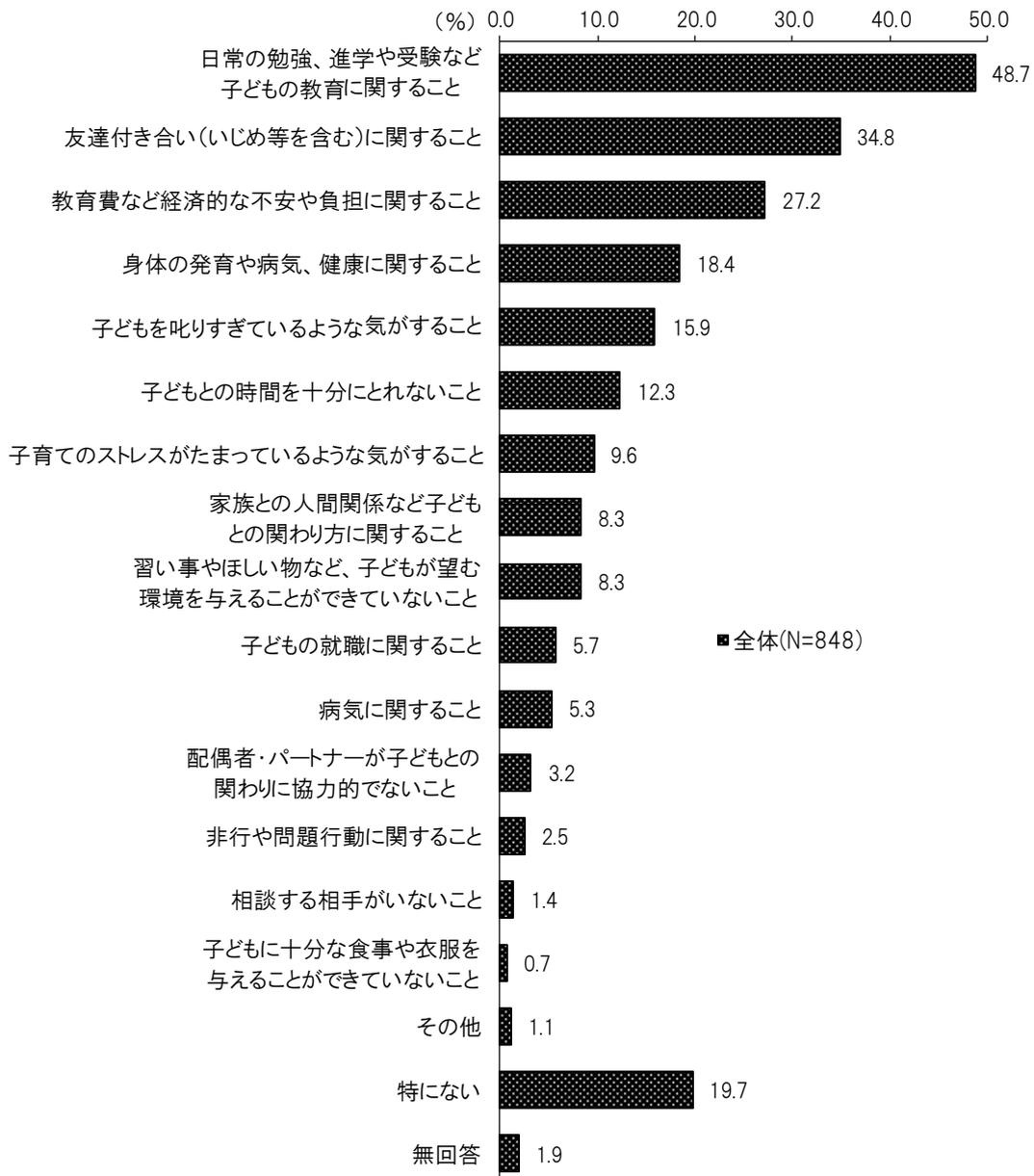
成績別では、成績が上のほうと回答した層ほど「大学又はそれ以上」の割合が高く、成績が下のほうと回答した層で「高校まで」の割合が高くなっている。

保護者の学歴別では、共に中高卒で「高校まで」、いずれかが短大卒や共に短大卒で「短大・高専・専門学校まで」、いずれが大卒以上や共に大卒以上で「大学又はそれ以上」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっている。



## 7 子どものことでの悩み

子どものことでの悩みについては、「日常の勉強、進学や受験など子どもの教育に関する事」の割合が48.7%と最も高く、次いで「友達付き合い（いじめ等を含む）に関する事」（34.8%）、「教育費など経済的な不安や負担に関する事」（27.2%）、「身体の発育や病気、健康に関する事」（18.4%）、「子どもを叱りすぎているような気がする事」（15.9%）の順となっている。

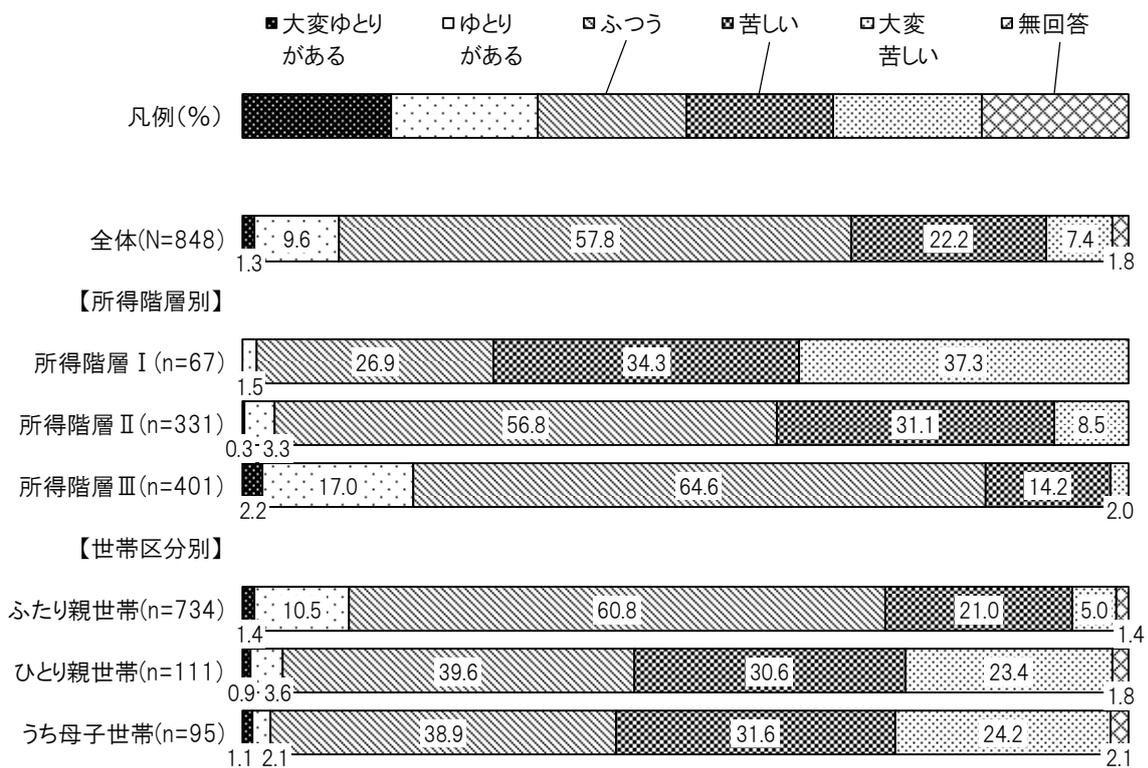


## 8 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況については、約1割（10.9%）が『ゆとりがある』（「大変ゆとりがある」「ゆとりがある」の合計）、約6割（57.8%）が「ふつう」、約3割（29.6%）が『苦しい』（「苦しい」「大変苦しい」の合計）と回答している。

所得階層別では、所得階層Ⅲで『ゆとりがある（合計）』の割合が高く、所得の階層が低いほど『苦しい（合計）』の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ひとり親世帯の過半数が『苦しい（合計）』と回答している。

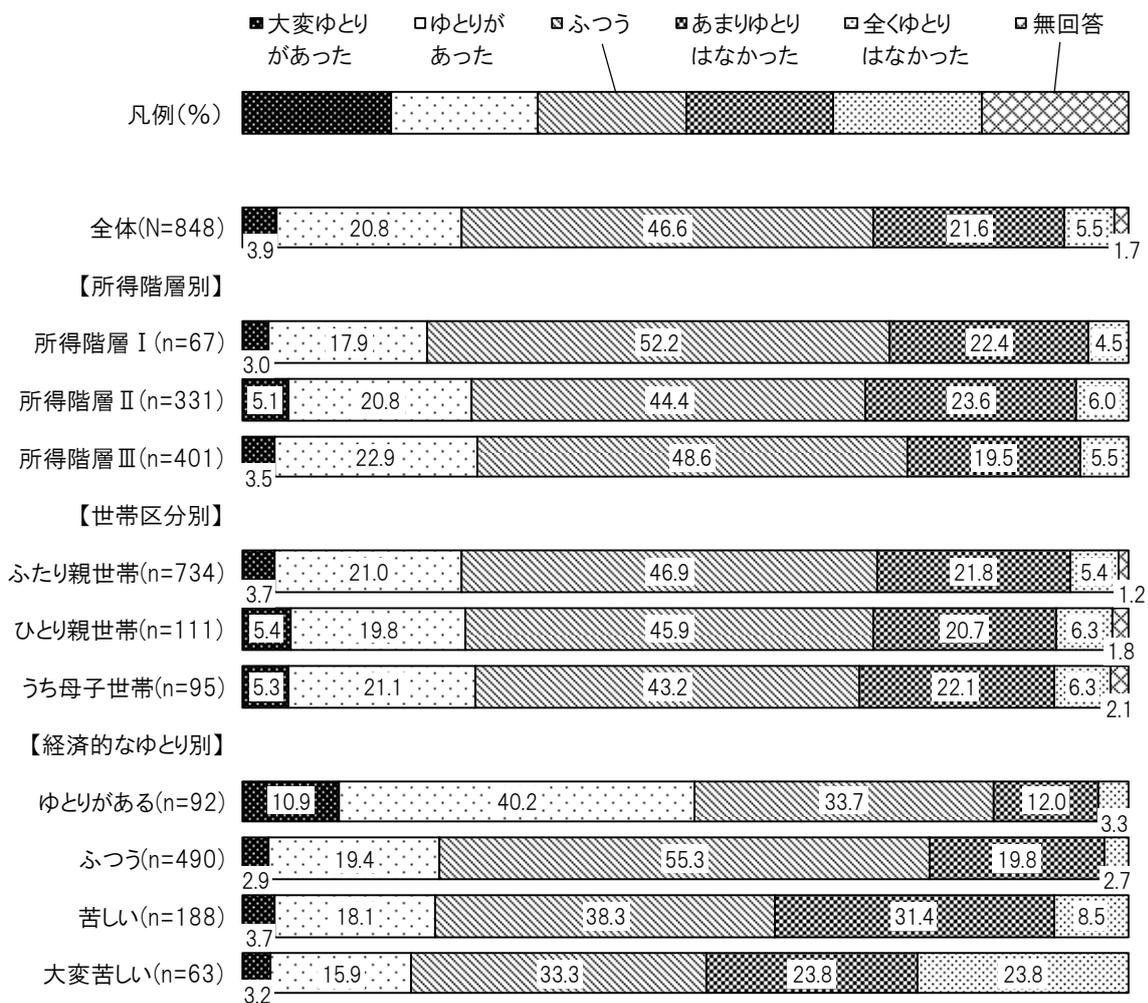


## 9 子どもの頃の経済的なゆとり

子どもの頃の経済的なゆとりについては、24.7%が『ゆとりがあった』（「大変ゆとりがあった」「ゆとりがあった」の合計）、46.6%が「ふつう」、27.1%が『ゆとりはなかった』（「あまりゆとりはなかった」「全くゆとりはなかった」の合計）と回答している。

所得階層別、世帯区分別では、大きな差はみられない。

経済的なゆとり別では、ゆとりがあると回答した層で『ゆとりがあった（合計）』の割合が高く、経済的に苦しい層ほど『ゆとりはなかった（合計）』の割合が高くなっている。

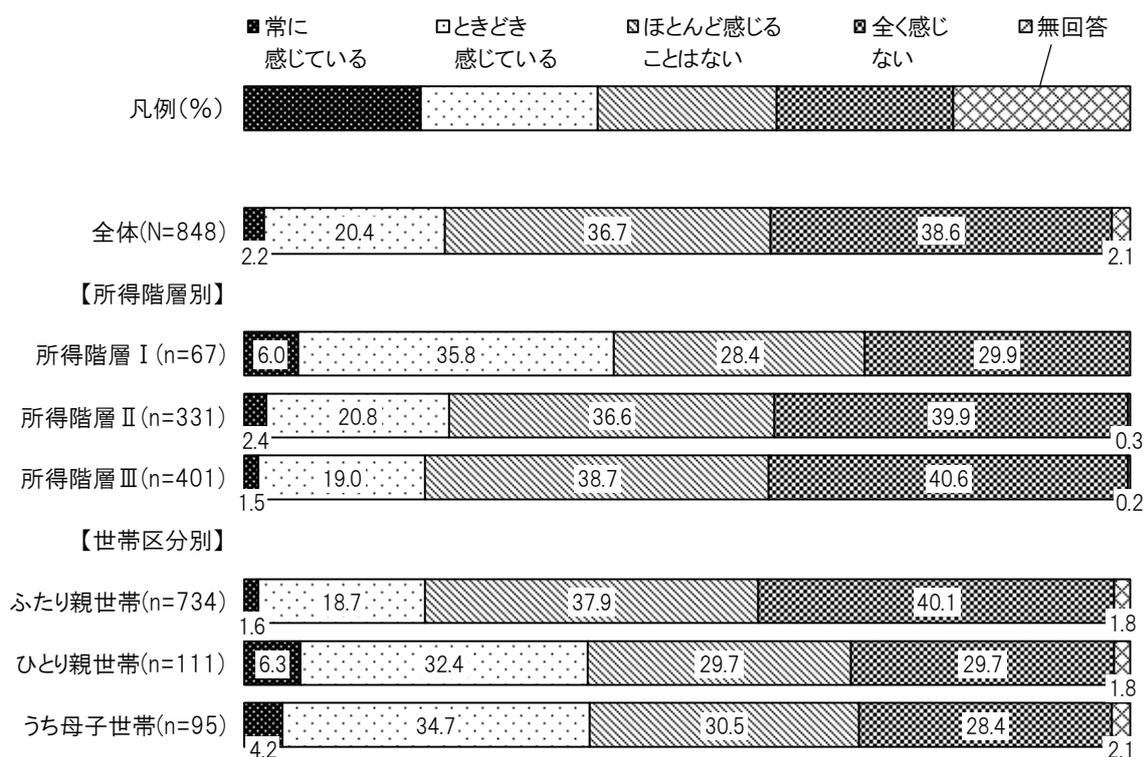


## 10 孤独感の有無

孤独感の有無については、22.6%が『感じている』（「常に感じている」「ときどき感じている」の合計）、75.3%が『感じない』（「ほとんど感じることはない」「全く感じない」の合計）と回答している。

所得階層別では、所得階層Ⅰで『感じている（合計）』の割合が他の階層に比べて高くなっている。

世帯区分別では、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて『感じている（合計）』の割合が高くなっている。

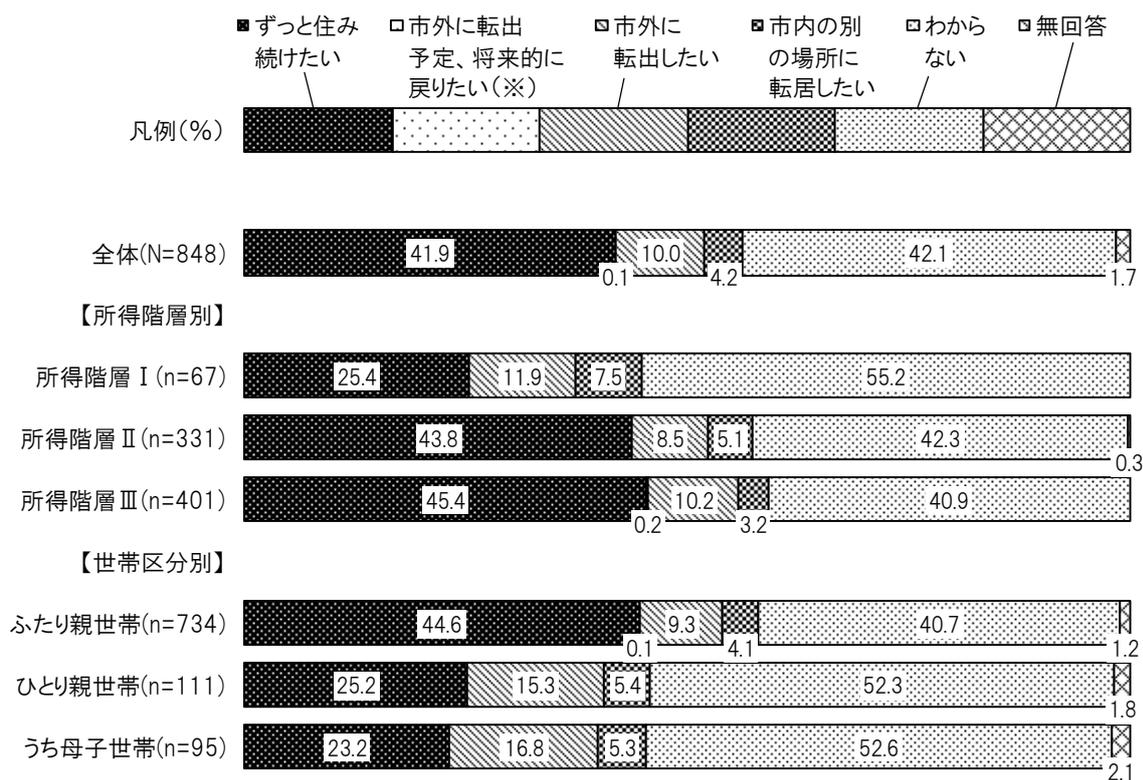


## 11 永住意向

永住意向については、41.9%が「ずっと住みたい」と回答しており、「市外に転出したい」が10.0%、「市内の別の場所に転居したい」が4.2%となっている。

所得階層別では、所得階層ⅡやⅢで「ずっと住みたい」の割合が高くなっている。

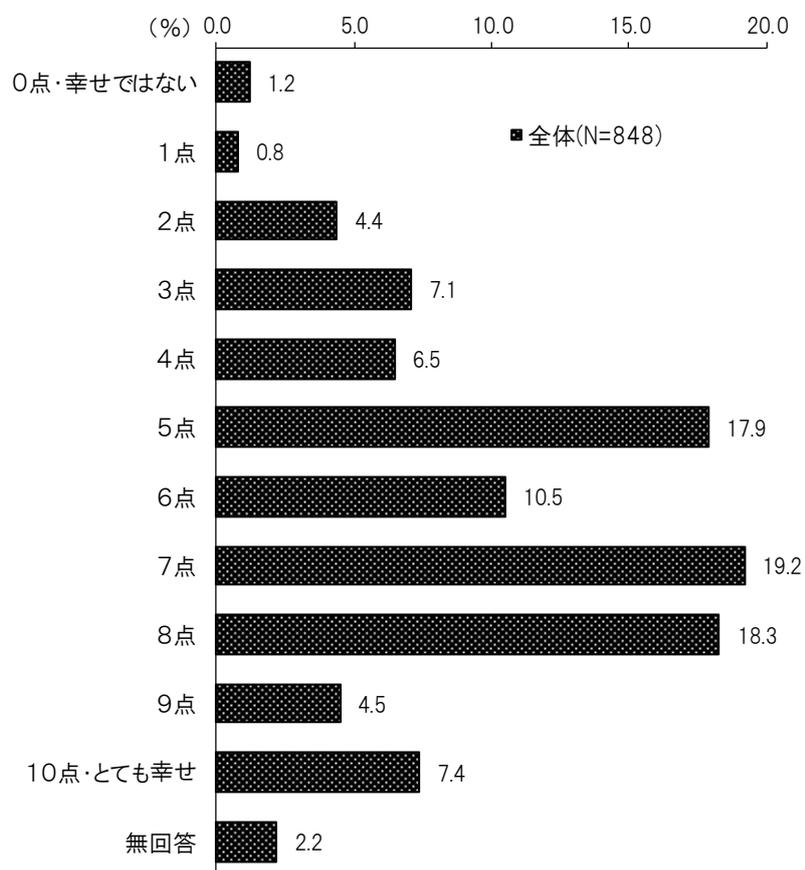
世帯区分別では、ふたり親世帯はひとり親世帯に比べて「ずっと住みたい」の割合が高くなっている。



※ 市外に転出する予定があるが、将来的には四国中央市に戻りたい

## 12 現在の生活の満足度

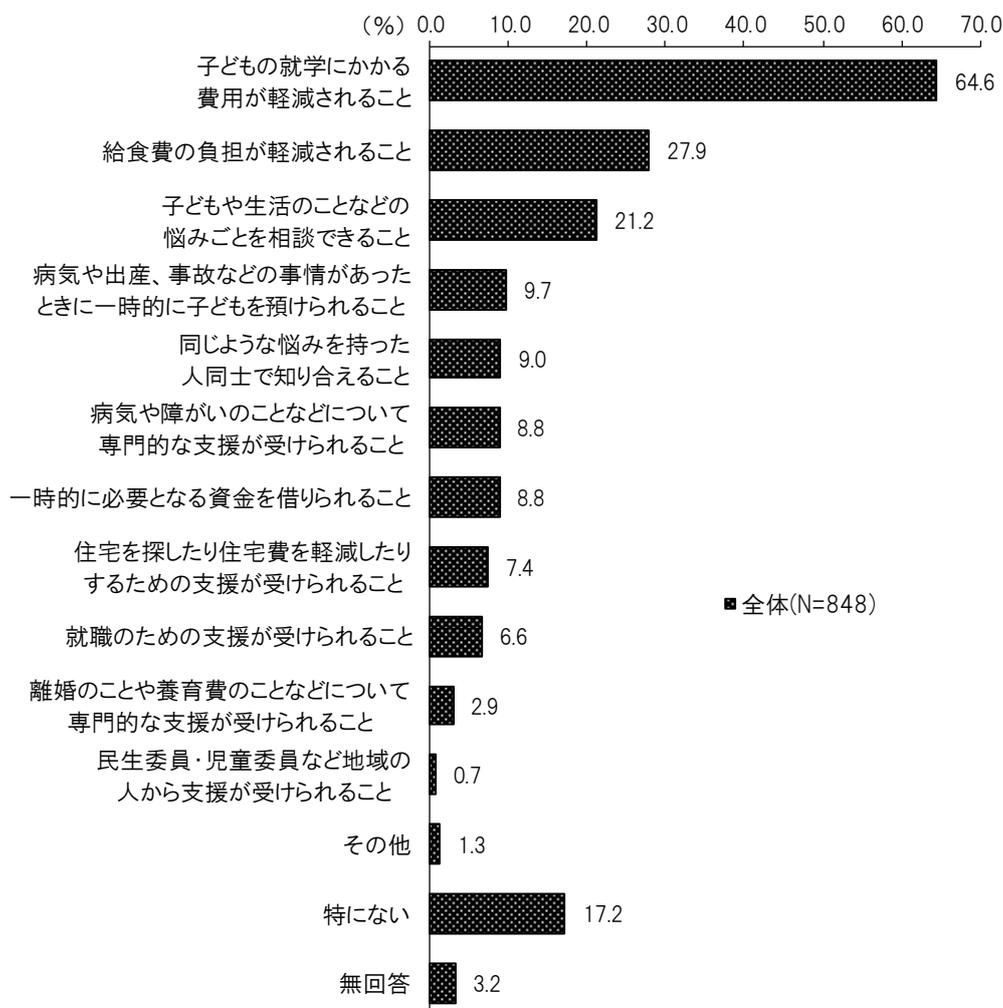
現在の生活の満足度については、「7点」の割合が19.2%と最も高く、次いで「8点」(18.3%)、「5点」(17.9%)の順となっており、平均6.2点となっている。



	平均(点)
全体(N=848)	6.2

### 13 必要としている支援

必要としている支援については、「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」の割合が64.6%と最も高く、次いで「給食費の負担が軽減されること」(27.9%)、「子どもや生活のことなどの悩みごとを相談できること」(21.2%)の順となっている。



### Ⅲ 調査結果（小・中学生）

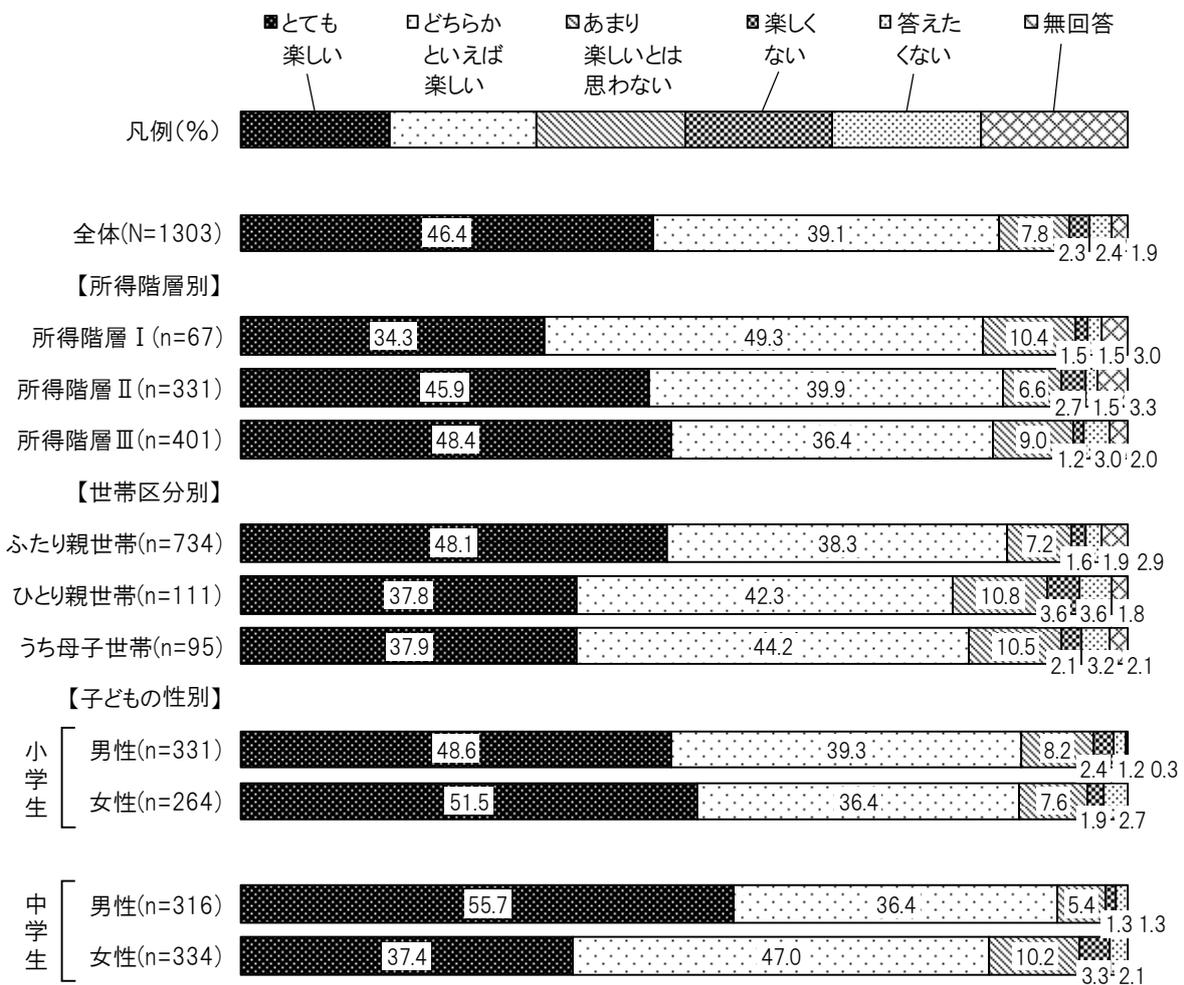
#### 1 学校生活の楽しさ

学校生活の楽しさについては、85.5%が『楽しい』（「とても楽しい」「どちらかといえば楽しい」の合計）と回答している。

所得階層別では、所得階層Ⅰで「とても楽しい」の割合が他の階層を大きく下回っている。

世帯区分別では、ふたり親世帯で「とても楽しい」の割合がひとり親世帯を大きく上回っている。

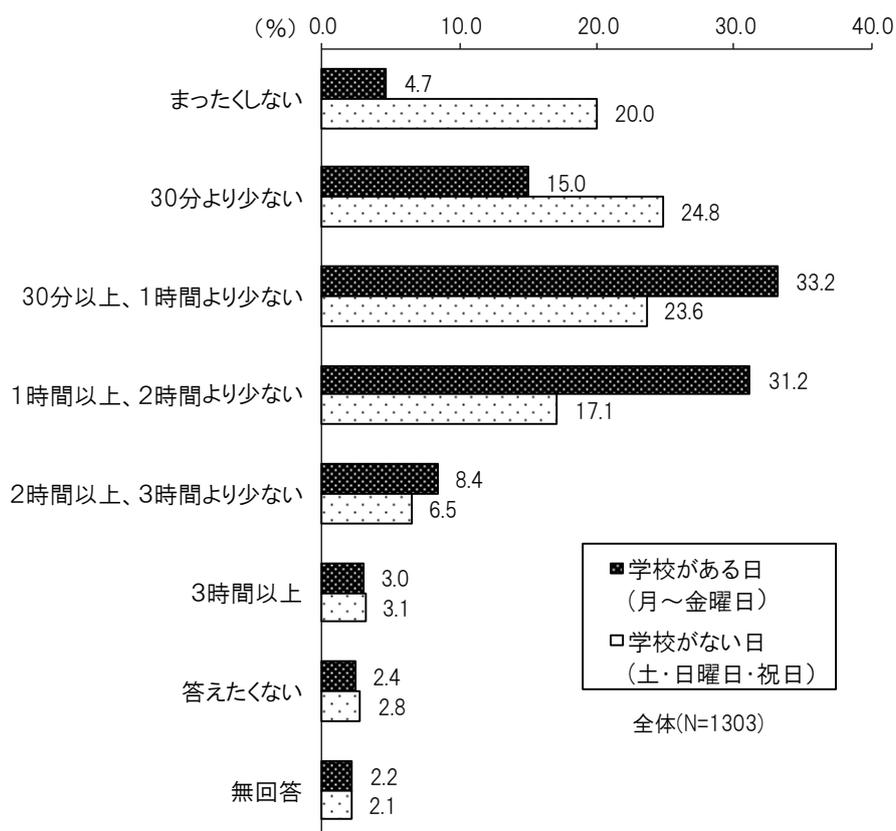
子どもの性別では、中学生女性で「とても楽しい」の割合が他の学年に比べて低くなっている。



## 2 授業以外の1日あたりの勉強時間

学校がある日（月～金曜日）の授業以外の1日あたりの勉強時間については、「30分以上、1時間より少ない」が33.2%と最も高く、ほぼ並んで「1時間以上、2時間より少ない」（31.2%）が続いている。

学校がない日（土・日曜日・祝日）の1日あたりの勉強時間については、「30分より少ない」が24.8%と最も高く、ほぼ並んで「30分以上、1時間より少ない」（23.6%）が続いている。一方で、2割が「まったくしない」と回答している。



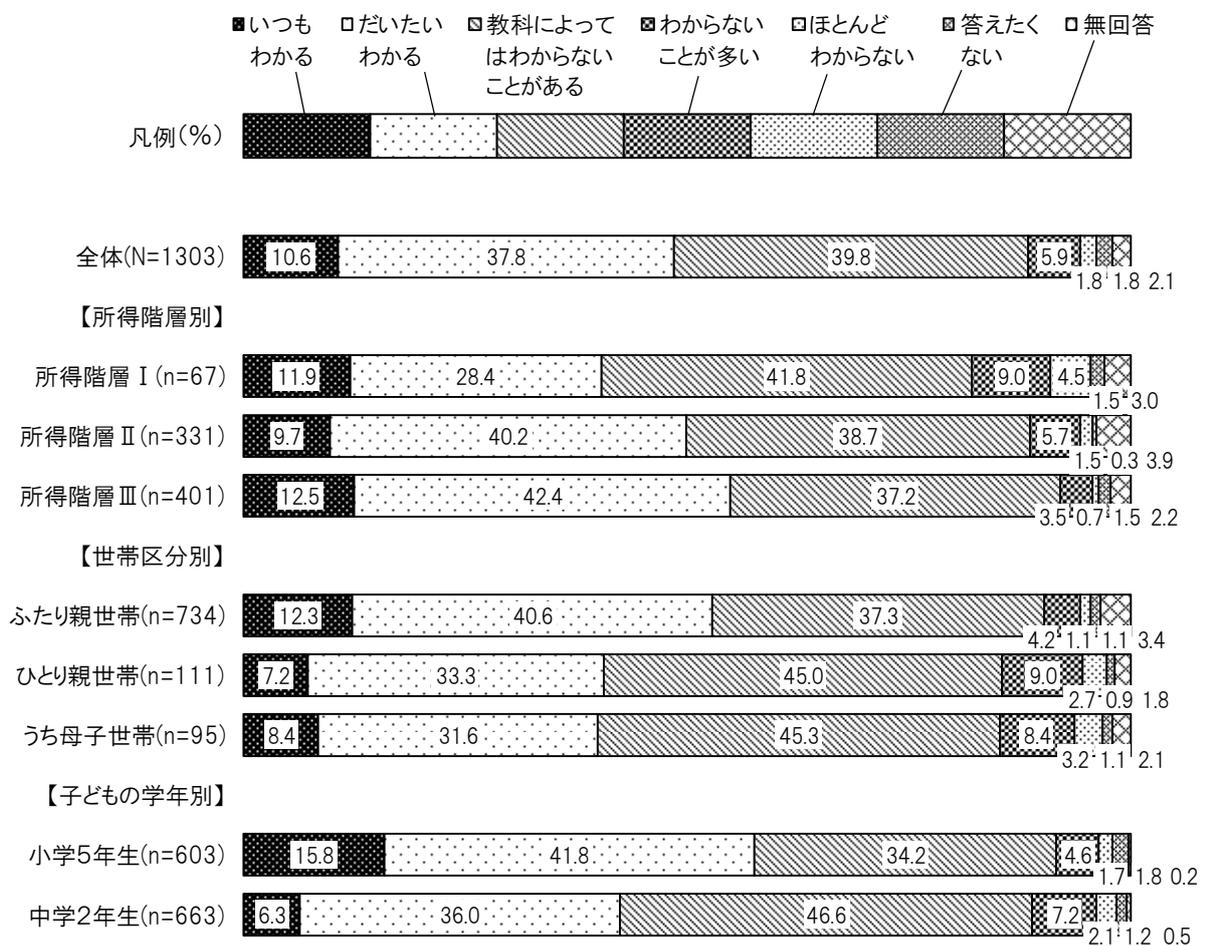
### 3 授業に対する理解度

授業に対する理解度については、「いつもわかる」「だいたいわかる」の合計割合が48.4%、「教科によってはわからないことがある」が39.8%、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計割合が7.7%となっている。

所得階層別では、所得の階層が高いほど『わかる（合計）』の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ふたり親世帯はひとり親世帯に比べて『わかる（合計）』の割合が高くなっている。

子どもの学年別では、小学5年生は中学2年生に比べて『わかる（合計）』の割合が高くなっている。

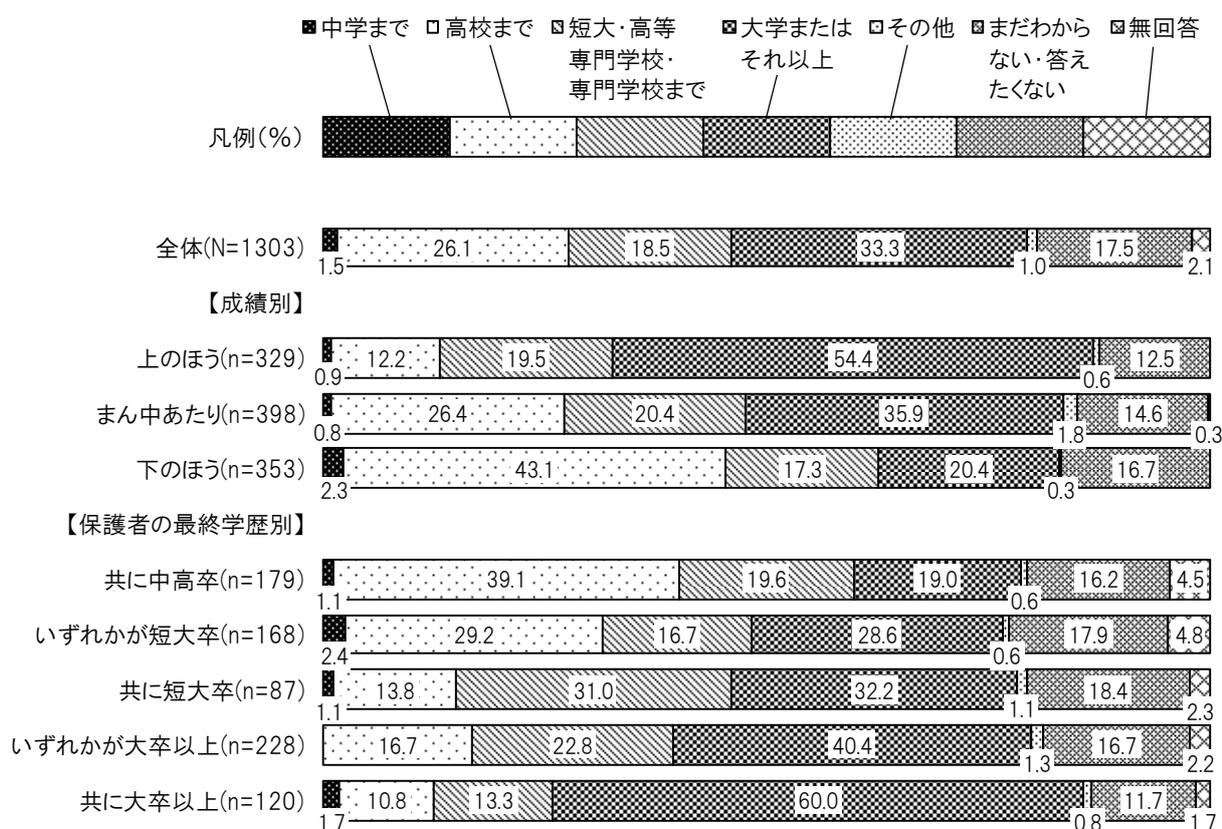


## 4 希望する進学先

希望する進学先については、「大学またはそれ以上」の割合が33.3%と最も高く、次いで「高校まで」(26.1%)、「短大・高等専門学校・専門学校まで」(18.5%)の順となっている。

成績別では、成績が下のほうと回答した層ほど「高校まで」の割合が高く、成績が上のほうと回答した層ほど「大学またはそれ以上」の割合が高くなっている。

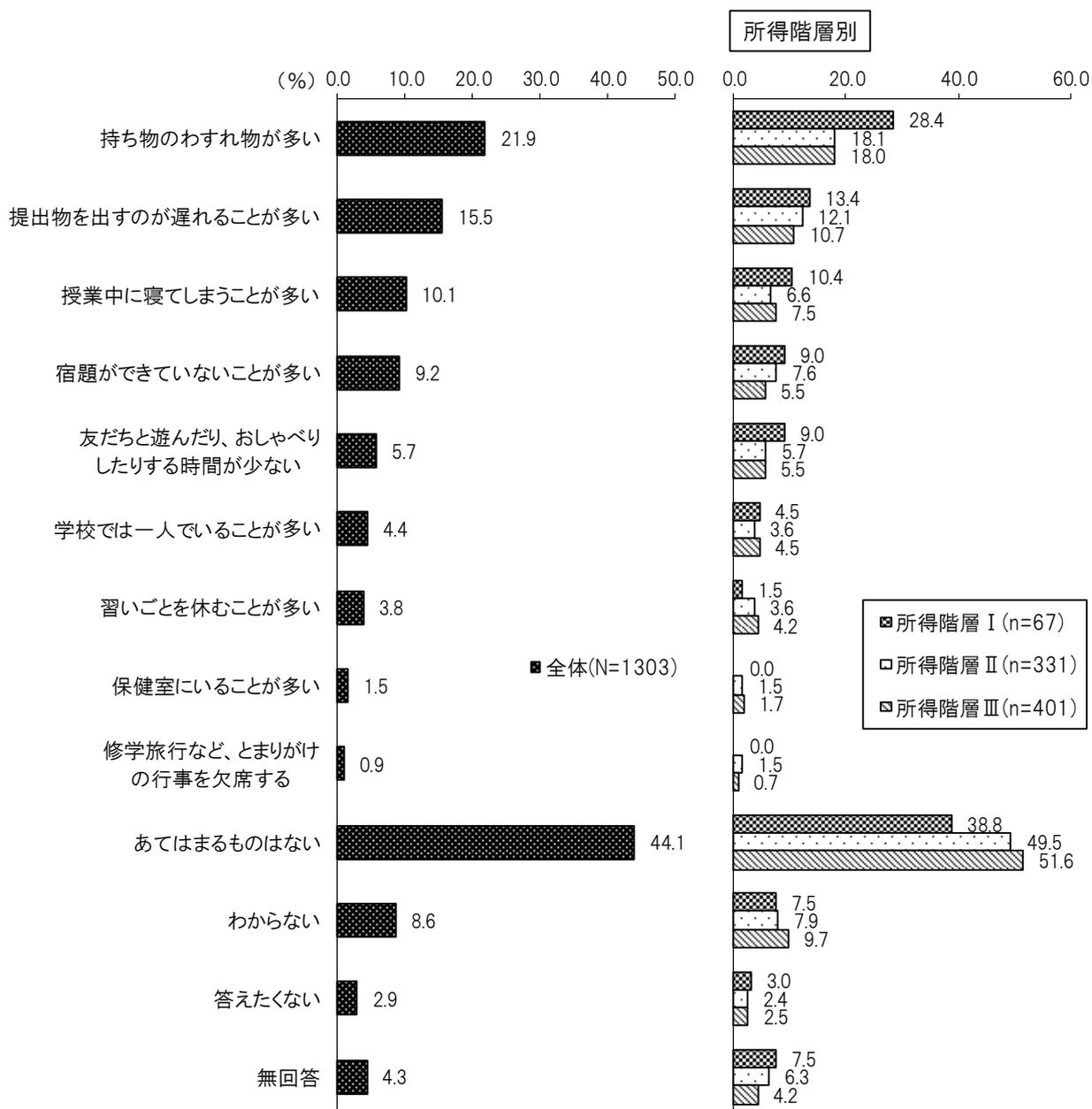
保護者の学歴別では、共に中高卒と回答した層で「高校まで」の割合が高く、共に大卒以上と回答した層で「大学またはそれ以上」の割合が他の層を大きく上回っている。



## 5 ふだんの学校生活について

ふだんの学校生活であてはまるものについて、「持ち物のわすれ物が多い」(21.9%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(15.5%)、「授業中に寝てしまうことが多い」(10.1%)「宿題ができていないことが多い」(9.2%)の順に高くなっている。

所得階層別では、所得階層Ⅰで「持ち物のわすれ物が多い」の割合が他の階層に比べて高くなっている。



世帯区別では、大きな差はみられない。

子どもの性別では、小学生男性で「持ち物のわすれ物が多い」、中学生男性で「提出物を出すのが遅れることが多い」「授業中に寝てしまうことが多い」の割合がそれぞれ他の学年に比べて高くなっている。

成績別では、成績が下のほうと回答した層ほど「持ち物のわすれ物が多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」「授業中に寝てしまうことが多い」「宿題ができていないことが多い」の割合が高くなっている。

単位 (%)		持ち物のわすれ物が多い	提出物を出すのが遅れることが多い	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	学校では一人でいることが多い	習いごとを休むことが多い	保健室にすることが多い	修学旅行など、とまりがけの行事を欠席する	あてはまるものはない	わからない	答えたくない
全体(N=1303)		21.9	15.5	10.1	9.2	5.7	4.4	3.8	1.5	0.9	44.1	8.6	2.9
【世帯区別】													
ふたり親世帯(n=734)		18.4	10.8	7.4	6.4	5.0	3.7	3.7	1.8	1.2	50.5	8.2	2.5
ひとり親世帯(n=111)		22.5	13.5	8.1	8.1	9.9	7.2	3.6	0.0	0.0	45.9	9.9	2.7
うち母子世帯(n=95)		20.0	13.7	8.4	9.5	8.4	6.3	3.2	0.0	0.0	47.4	9.5	3.2
【子どもの性別】													
小学生	男性(n=331)	28.1	13.0	4.5	12.1	3.9	3.3	4.8	2.1	1.2	35.6	13.3	4.5
	女性(n=264)	24.2	10.6	3.4	6.1	7.6	6.8	3.8	1.1	1.1	48.9	8.0	1.9
中学生	男性(n=316)	24.4	25.0	19.3	13.9	4.1	2.8	2.5	0.6	0.6	44.3	6.0	1.6
	女性(n=334)	14.4	13.5	12.9	4.5	7.8	4.8	4.2	2.4	0.9	53.0	7.2	1.5
【成績別】													
上のほう(n=329)		17.0	9.7	4.3	3.6	5.5	4.0	4.0	0.9	1.2	59.3	4.6	2.1
まん中あたり(n=398)		19.6	11.1	10.3	4.8	5.3	4.0	3.0	0.5	0.8	53.0	7.5	1.0
下のほう(n=353)		33.1	29.2	16.7	19.3	5.4	4.5	4.2	2.8	0.3	31.2	7.9	2.5

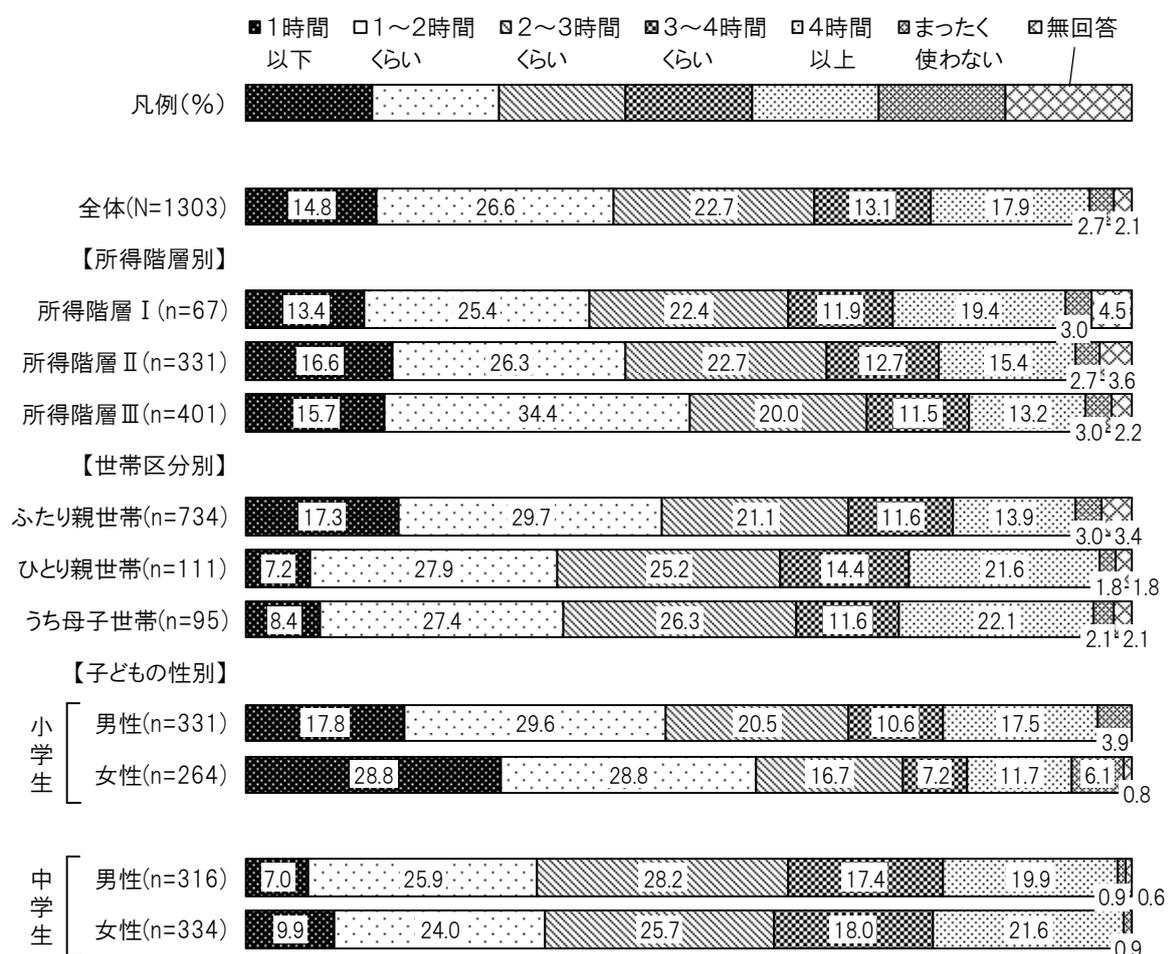
## 6 スマートフォン等の使用時間

スマートフォン等の使用時間については、「1～2時間くらい」の割合が26.6%と最も高く、次いで「2～3時間くらい」（22.7%）、「4時間以上」（17.9%）の順となっている。

所得階層別では、所得の階層が低いほど「4時間以上」の割合が高く、所得の階層が高いほど「1～2時間くらい」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて「4時間以上」の割合が高くなっている。

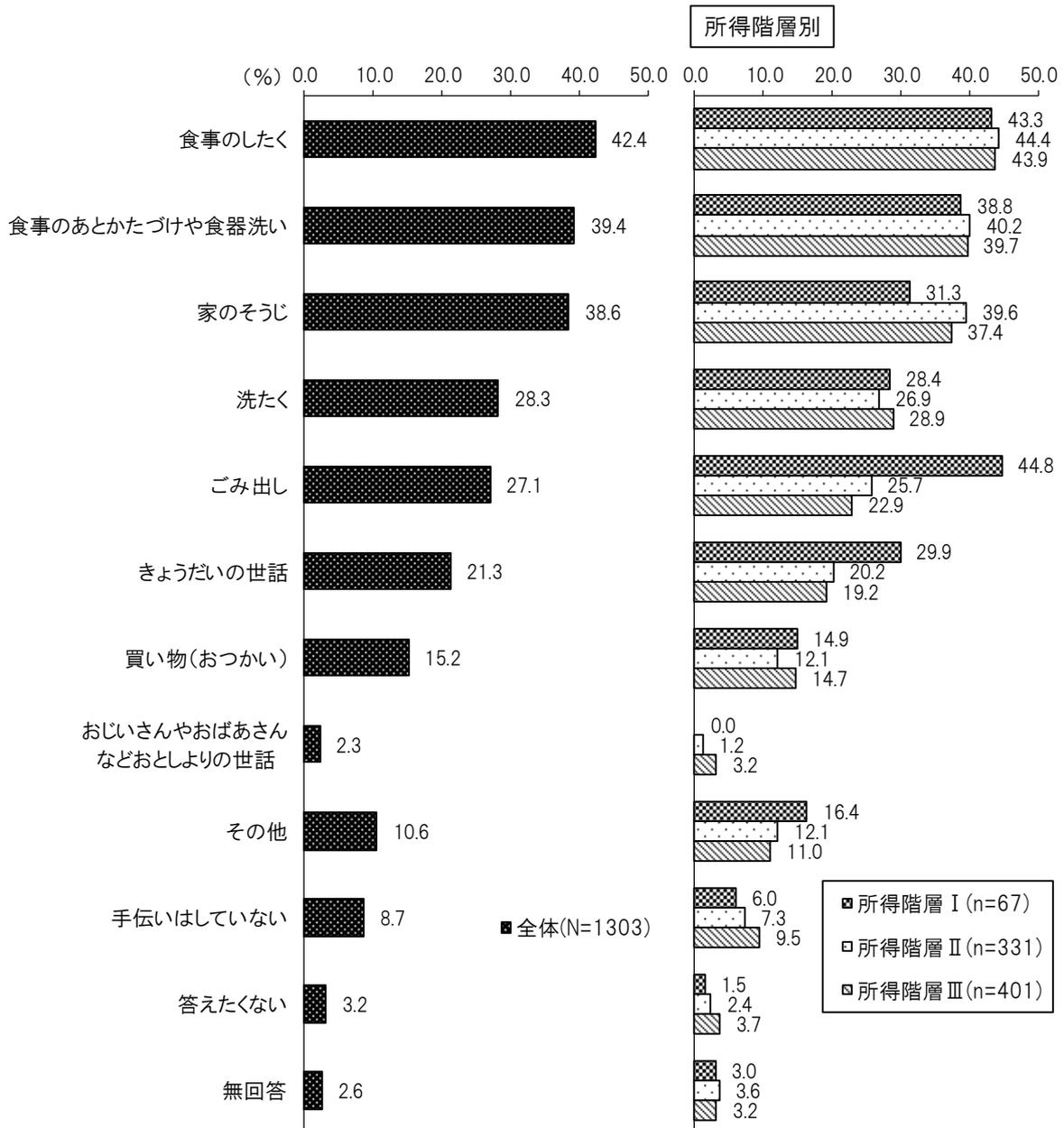
子どもの性別では、小学生女性で「1時間以下」の割合が他の学年に比べて高くなっている。



## 7 家の手伝い

家の手伝いについては、「食事のしたく」の割合が42.4%と最も高く、次いで「食事のあとかたづけや食器洗い」(39.4%)、「家のそうじ」(38.6%)「洗たく」(28.3%)、「ごみ出し」(27.1%)が続いている。

所得階層別では、所得階層Ⅰで「ごみ出し」「きょうだいの世話」の割合が他の階層に比べて高くなっている。



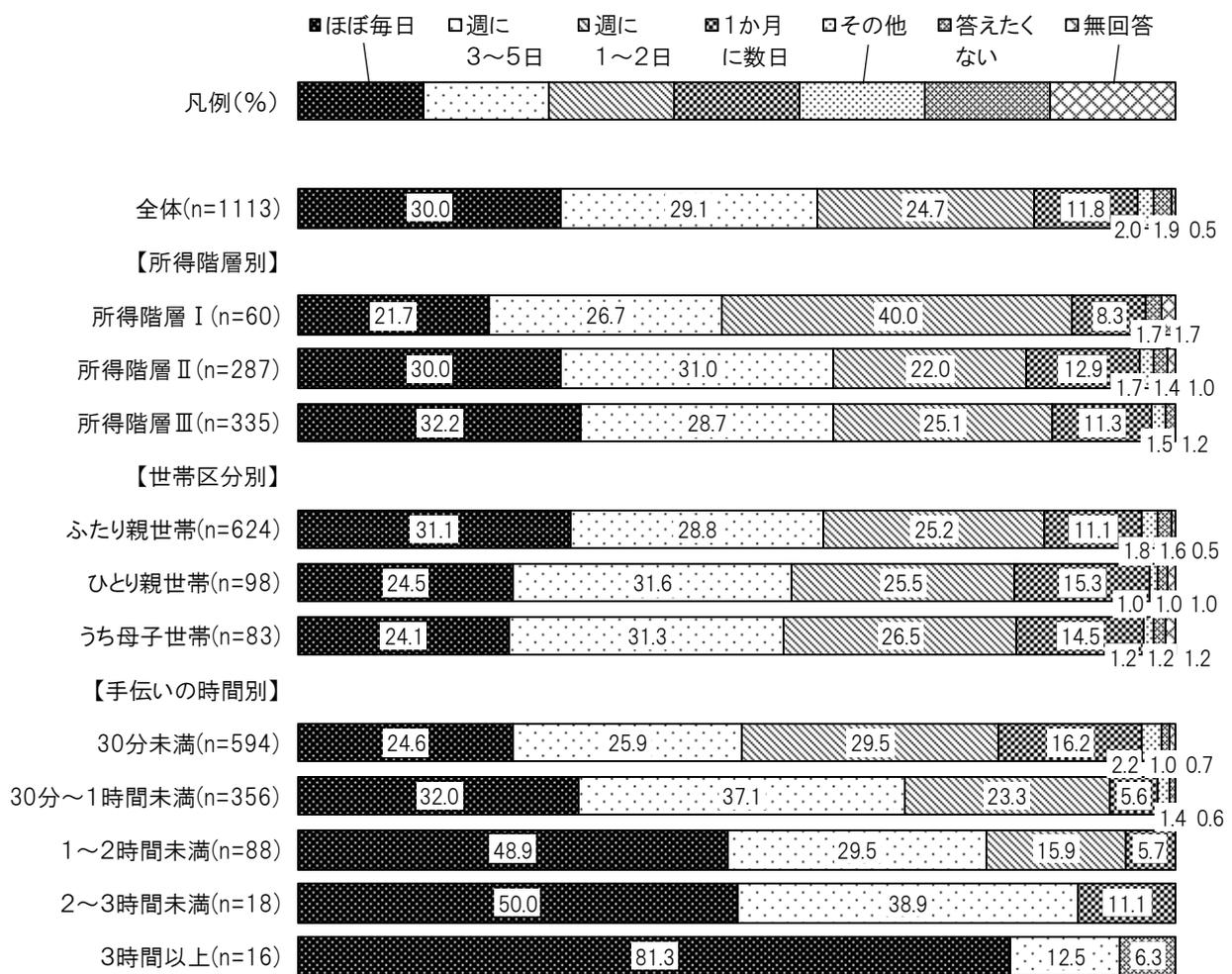
## 8 家事の手伝いをする日数

家事の手伝いをする日数については、30.0%が「ほぼ毎日」、29.1%が「週に3～5日」、24.7%が「週に1～2日」と回答しており、『週1日以上（合計）』は83.8%となっている。

所得階層別では、所得階層Ⅰで「週に1～2日」の割合が高く、所得の階層が高いほど「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、ふたり親世帯はひとり親世帯に比べて「ほぼ毎日」の割合がやや高くなっている。

手伝いの時間別では、手伝いの時間が長い層ほど「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。



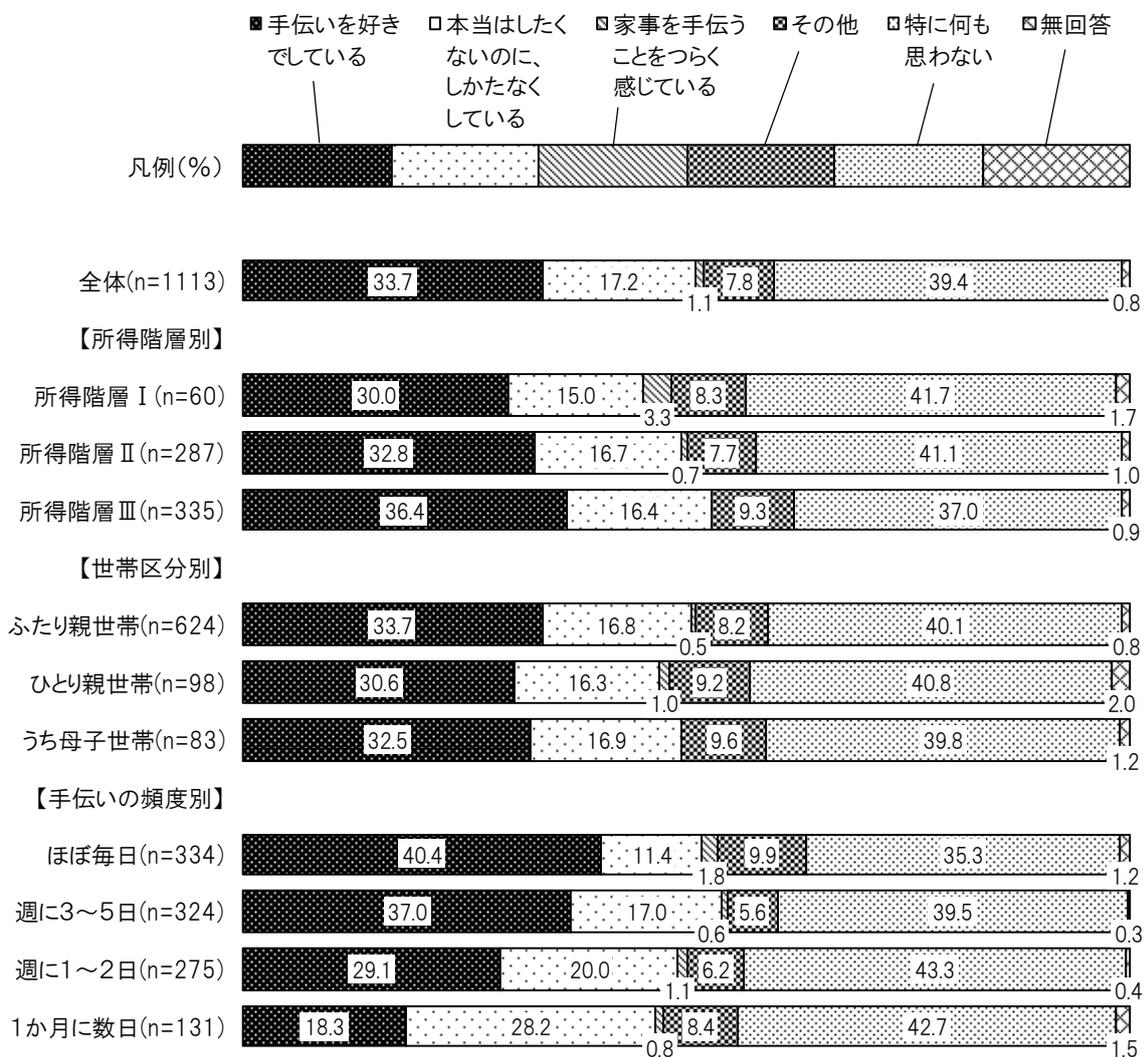
## 9 家事の手伝いに対する思い

家事の手伝いに対する思いについては、3人に1人(33.7%)が「手伝いを好きでしている」と回答しており、「本当はしたくないのに、しかたなくしている」割合は17.2%となっている。また、約4割(39.4%)が「特に何も思わない」と回答している。

所得階層別では、所得の階層が高いほど「手伝いを好きでしている」の割合が高くなっている。

世帯区分別では、大きな差はみられない。

手伝いの頻度別では、手伝う頻度が高い層ほど「手伝いを好きでしている」の割合が高くなっている。



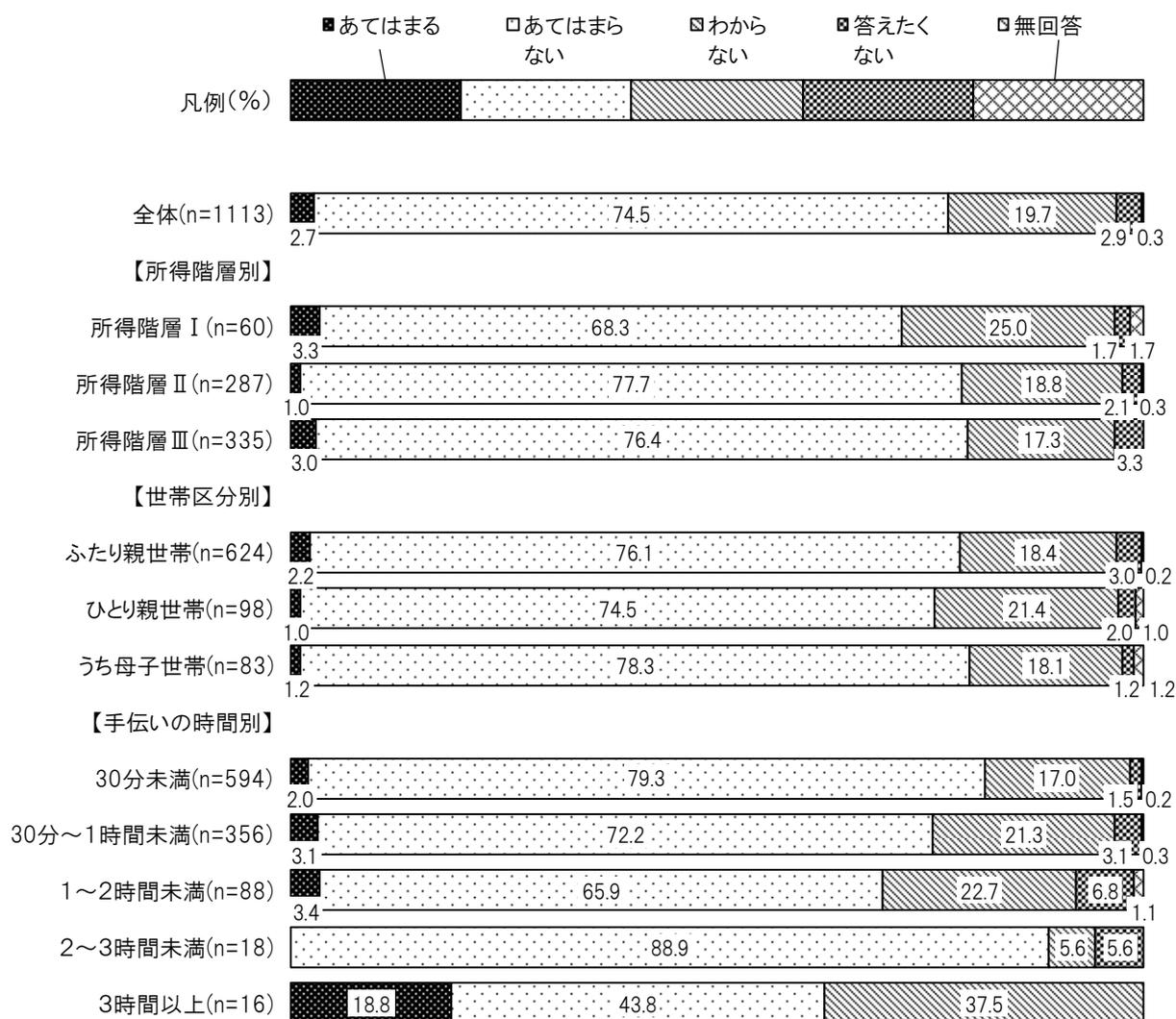
## 10 ヤングケアラーの自覚について

ヤングケアラーの自覚については、7割以上（74.5%）が「あてはまらない」と回答しており、「あてはまる」の割合は2.7%となっている。

所得階層別では、所得階層Ⅰで「わからない」の割合が他の階層に比べて高くなっている。

世帯区分別では、大きな差はみられない。

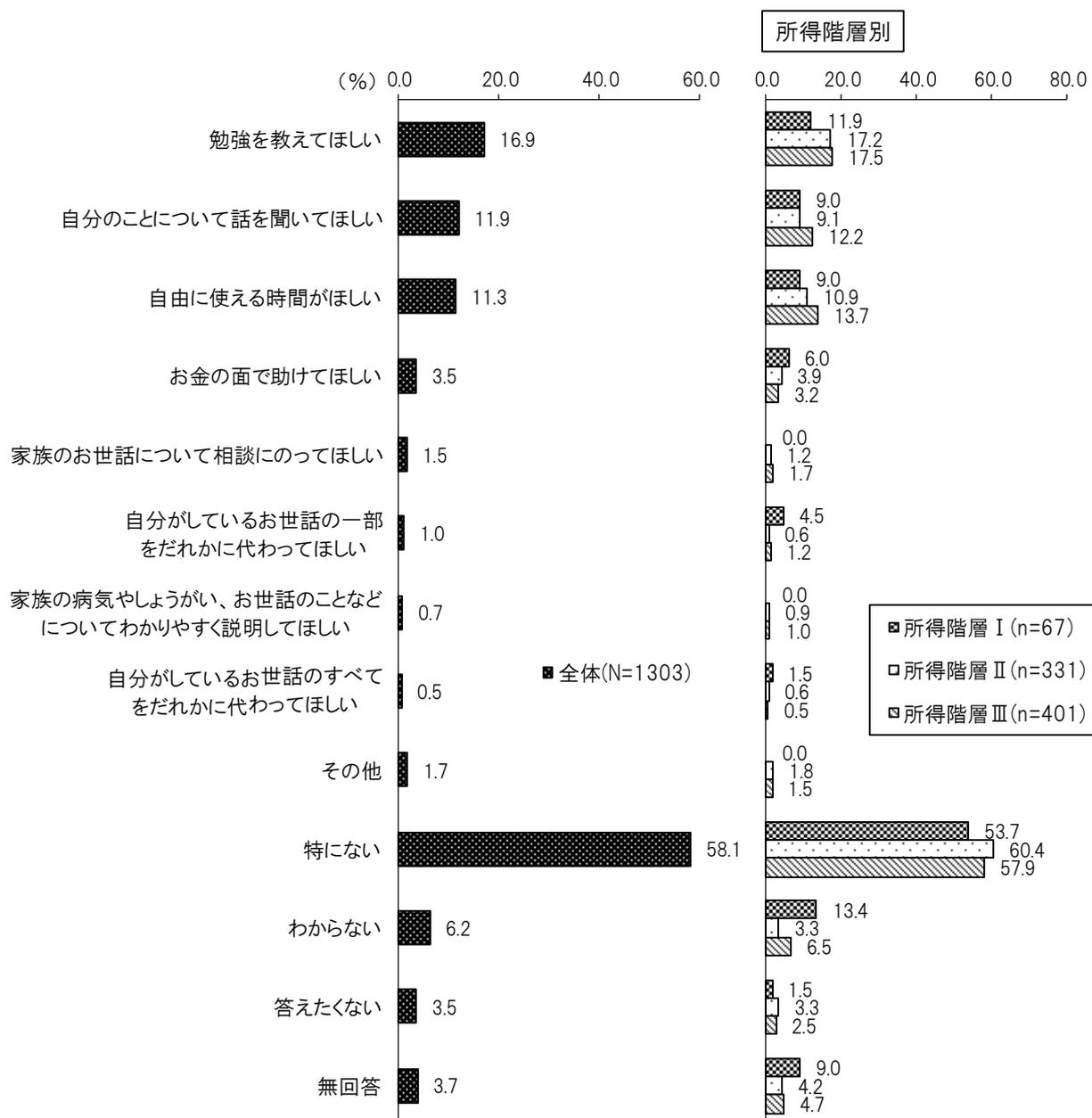
手伝いの時間別では、3時間以上で「あてはまる」の割合が他の層を大きく上回っている。



## 11 学校や大人に助けてほしいこと

6割近く（58.1%）が「特にない」と回答しているが、学校や大人に助けてほしいことについては、「勉強を教えてほしい」（16.9%）、「自分のことについて話を聞いてほしい」（11.9%）、「自由に使える時間がほしい」（11.3%）があげられる。

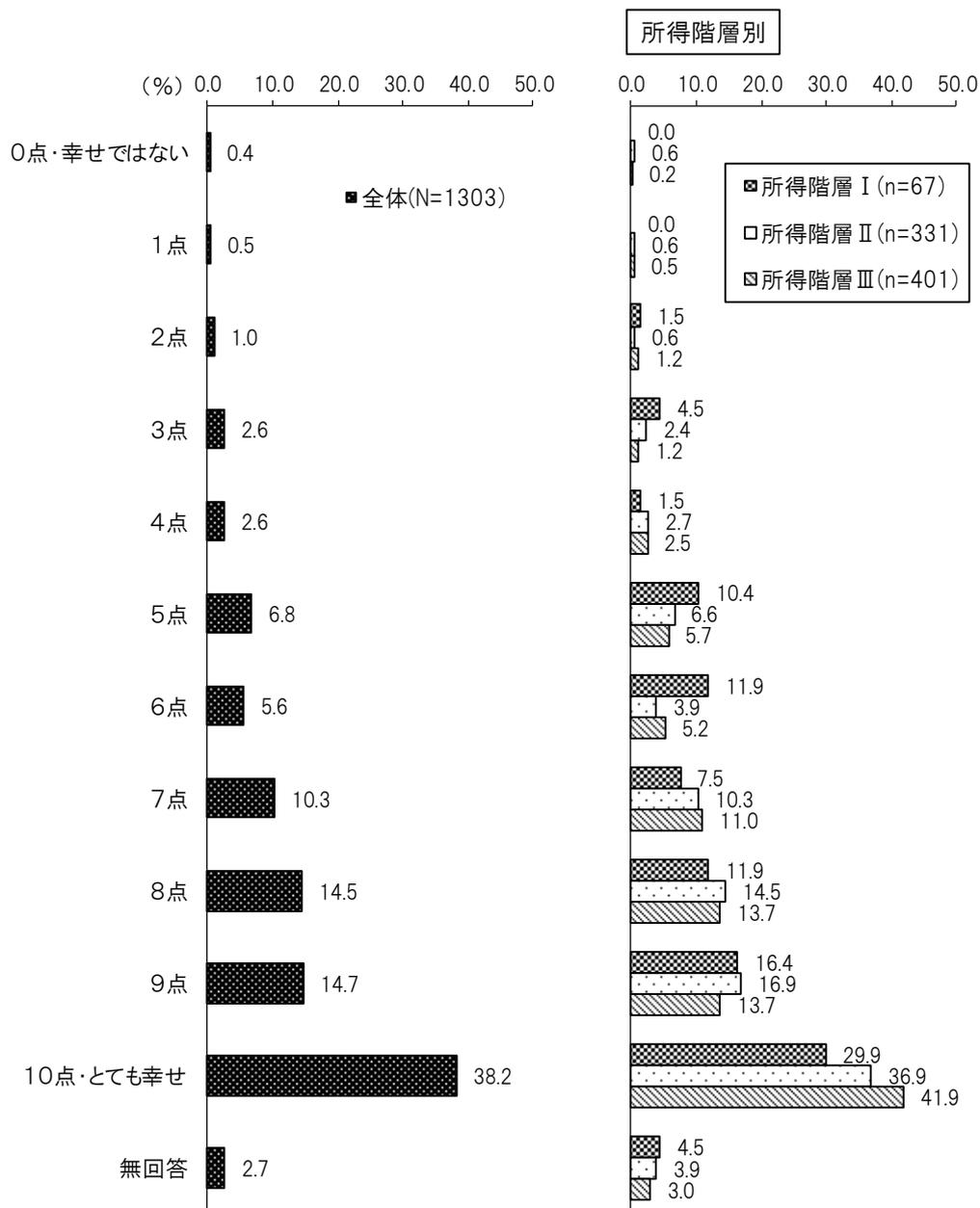
所得階層別では、所得の階層が高いほど「勉強を教えてほしい」の割合がやや高くなっている。



## 12 現在の生活の満足度

現在の生活の満足度については、「10点・とても幸せ」の割合が38.2%と最も高く、次いで「9点」（14.7%）、「8点」（14.5%）の順となっており、平均8.1点となっている。

所得階層別では、所得の階層が高いほど「10点・とても幸せ」の割合が高く、所得階層Ⅰでは「5～6点」の割合が高くなっている。



	平均(点)
全体(N=1303)	8.1

所得階層別	平均(点)
所得階層Ⅰ (n=67)	7.8
所得階層Ⅱ (n=331)	8.2
所得階層Ⅲ (n=401)	8.3



四国中央市 子どもの生活実態に関する調査報告書  
－ 概要版 －

---

発 行 / 令和6（2024）年7月  
発 行 者 / 愛媛県 四国中央市 こども家庭課  
〒799-0497 愛媛県四国中央市三島宮川4丁目6番55号  
電 話（0896）28-6027  
メー ル kosodatekikaku@city.shikokuchuo.ehime.jp

---